

## 両津町大火災史【非売品】

編著者：若林甫舟著

発行：両津町役場

発行日：昭和8年12月30日

### 一、御大典を前にして

### 二、其の夜

- 1 突如静寂を破つて
- 2 空中に爆発する火の宝
- 3 破壊消防も遂に力及ばず今は焼くるにまかすのみ
- 4 哀れや火に追はるゝ老人と小供
- 5 海岸に立ちて
- 6 海岸に搬出した家財の山、餓と寒さに身を慄はせて
- 7 恨めしや両津橋、積んだまゝ焼いた家財の山
- 8 斯くして一夜に百六拾萬圓を灰に

### 三、其夜は明けて

- 1 荒寥たり焼野原
- 2 其朝の土屋町長目"目+星"しき應急措置
- 3 俺の家は何處
- 4 ホットしたも束の間残つた蔵から火が
- 5 一日にして出来た原始村
- 6 火災が生んだ一情景平和は此處に

### 四、目"目+星"しい町当局の活動

- 1 地図と首ツ引きの土屋町長
- 2 幼稚園児に交つて吏員の大活動

### 五、涙ぐましき各種機関の大活動

### 六、敏活を極めた通信機関

- 1 飛行機は来る黒煙の空へ
- 2 臨機の措置を慫やまらざりし樋口郵便局長

### 七、漲る同情の潮押し寄する慰問の嵐

- 1 両津を救へ
- 2 慮謝に餘る各地よりの義損金と慰問品の殺到
- 3 両津救済に奮ひ起つた各種団体

### 八、畏し事天聴に達して聖恩邊土に遍ねし

### 九、久邇宮殿下の御仁慈

### 一〇、火災後の経済状態

- 1 火事景気
- 2 資本の供水
- 3 職人の黄金時代

### 一一、火災が生んだ一傾向

- 1 カフェー全盛

## 2 雨後の筈

火災日誌

町民への警告

縣當局並に社会事業協会、中野財団等への往復文書

御下賜金の通知並に御禮電報其他

各地への禮状

罹災者人名、罹災者避難先調、慰問義捐者芳名、義損金分配

小学校に於ける罹災児童に對する見舞金品處理其他

火災餘話

- 1 ムザ／＼焼いた煙草の山
- 2 樋口郵便局長と勇敢なる交換嬢
- 3 警官なるが故に着のみ着のまゝの両津署員
- 4 涙ぐましき辻々の貼札
- 5 東條逋信官吏の應援
- 6 怒涛を蹴つて両津へ
- 7 うれしや時雨の松
- 8 猛火の中に咲いた信仰の華
- 9 消防部頭なるが故に丸るの裸になつた後藤君
- 10 泣くに泣かれぬ産婦、うれしやこの救の手
- 11 復興行進曲、復興の魁は電柱と食ひ気から
- 12 二度の災難、新築したばかりの橋本座
- 13 雄々しや大和撫子の一隊
- 14 腹のへった人は松瀬の焼跡へお出でなさい
- 15 火元なるが故に世に容れられね野口一家哀れ何處へ
- 16 慰問品配給ナンセンス
- 17 古峰さんの御利益で焼失を免がれた山岸邸
- 18 配給珍風景
- 19 これも因縁

復興の道路

- 1 復興の縣道
- 2 歩道工事
- 3 復興の町道

災害復旧土木費年度別支出内訳

災害による不動産の移動状況

住宅復旧資金貸付に関する文書

役場の建築

- 1 現敷地の町有に移るまで
- 2 火災前後の役場
- 3 建築問題に絡る其後の状勢
- 4 地鎮祭の祭文

5 建築費寄付者

6 建築工事関係者

7 役場設計の概要

慰問の嵐、同情の潮

火災と両津橋

両津消防組の沿革と現有警備力

両津の為に祈る